

◆ ◆

◆ 配信事業部・システムの気象庁新庁舎（港区虎ノ門）への移転について

(一財) 気象業務支援センター（以下、「センター」と呼ぶ。）では、気象業務法による指定を受けた「民間気象業務支援センター」として気象庁作成の防災気象情報や数値予報等の各種データを「情報提供業務」として利用者に提供してきています。この中で、オンライン配信サービスについては、1996（平成8）年3月より気象庁の千代田区大手町の庁舎内に配信システムを整備し、約25年間運用してきました。今回、気象庁庁舎の港区虎ノ門への移転に伴い、配信事業部及び配信システムについても併せて新庁舎に移転し、2020（令和2）年11月19日（木）より新事務所において業務を開始しました（当センターの他部署の所在地には変更ありません）^{1）}。

図 気象庁新庁舎の地図（住所：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-6-9）。建物は、2020（令和2）年2月に竣工し、港区教育委員会（みなと科学館など）と同居しています。

(出展:気象庁)



現在、当センターでは、7つの配信システムを運用しており、これらの内、主要な4つのシステムを千代田区大手町の気象庁庁舎内に設置し24時間365日、常時監視・運用してきました。その他の清瀬市・大阪市に設置している3つのシステムも大手町庁舎より遠隔監視を行なってきました²。

今回の気象庁庁舎の移転に伴い、配信事業部及び配信システムについても対応が必要となり、緊急地震速報や注意報・警報などの防災気象情報を24時間365日、常時安定かつ確実に提供することを基本として、以下の方針のもと検討し、これまでと同様に気象庁の新庁舎に配信システムを更新・整備することとし、作業を進めて参りました。

- 利用者の利便も考慮しながら移転・移行時もデータ提供を確実にを行うため、虎ノ門新庁舎に新たに配信システムを更新・整備し、
- 一定期間の並行運用（大手町庁舎からの配信と虎ノ門新庁舎の新システムからの配信を両立する）期間を設け、
- 並行運用期間内に、順次、利用者に新システムからの配信に移行頂く。

これらの方針及び更新システム等の詳細について、2019（令和1）年10月に開催した配信事業検討委員会（学識経験者、予報業務許可事業者・報道機関などの利用者代表、気象庁の専門家で構成）の了承を得て、以下の日程で移転関連作業を進めて参りました。

- 2019（令和1）年10月：配信事業検討委員会での検討を経て、システム更新等も含めた移転計画を決定
- 10月～：更新システムの整備、移転計画の策定。気象振興協議会や配信サービスの利用者等への周知。順次、利用者との回線切り替え等の移行作業の調整
- 2020（令和2）年6月～：虎ノ門新庁舎に無停電電源装置（UPS）、回線等を整備
- 7～8月：新配信システムの設置、試験
- 9月～：新配信システムの運用を開始。専用線利用者の移行作業開始
- 11月19日：運用監視・事務の拠点を大手町庁舎から虎ノ門新庁舎に移転
- 11月下旬～12月上旬：IP-VPN /インターネット利用者の移行作業（システム毎に一斉切替）
- 12月末：移行作業完了予定
- 2021（令和3）年1月末：大手町の配信システム停止・撤去。大手町庁舎を退去

(配信事業部)

◇ 危機管理産業展（R I S C O N）2020への出展参加報告

◆ 令和2年度東京都・北区合同総合防災訓練に展示参加しました

気象業務支援センターは、緊急地震速報利用者協議会との共同事業として、北区中央公園周辺会場での展示に参加しました。

人数制限のため、配布資料も 100 部程、と例年の約 1/3 でしたが、事前予約制だったため、防災訓練への関心の高い来場者の参加が多かったように感じました。

※気象庁ホームページから抜粋